診療所待合室

がん検診について

名和診療所 所長
佐々木 修治

悪性腫瘍（がん）は日本人の死亡原因のおよそ30％をしめています。また日本人の2人に1人はがんになるといわれています。肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮がん、肝臓がんなどが患者さんの多いがんといわれています。がんの発症は加齢も大きな要因になりますので、高齢化社会が進行すると今後も増えていくと見られています。

そこで、私たちはがんに対してどのように対応すべきでしょうか？がんにならない方法は、現時点では確立していないので、早期発見、早期治療が最もよい対応と考えられます。そのために大切なことは、がん検診をきちんと受けることになります。最初にあげた各種がんに対しては、全国的にがん検診が受けられるようになっており、もちろん大山町でも受診できます。検診の種類によって年齢など、受診の対象が違いますが、そのがんが発症しやすい年齢などを検討して決められています。受診すべき方には通知が届くようになっています。

皆さん、今年のがん検診はすべて受けられましたか？鳥取県は全国的には検診受診率が高いですが、それでも20～30％程度しかありません。つまり70～80％の人はがんがあるかもしれないのに、検査さえ受けていないのです。

大山町は、鳥取県の平均よりさらに低い検診受診率であり、改善が必要です。町としても出来るだけがん検診を受けやすい方法を考え、対策に努めますが、受診するかどうかを決めるのは、住民の皆様一人ひとりです。

治療の進歩で、多くのがんは早期発見、早期治療できれば、命を失うことは無くなっていますが、やはり進行してから見つかった場合は、治療が難しくなります。きちんと検診を受けて、がんで亡くなる方が一人でも減ってほしいと思っています。自分の体を守るのは自分自身です。

大山恵みの里だより vol. 23

アフリカのお客様

11月20日～21日、JICA（国際協力機構）のプログラムで、アフリカで起業家を育成する女性リーダーの一行が研修で大山町を訪れました。

収穫体験をする研修生

ベナン・ブルンジ・カメルーン・ジブチ・モーリシャス・モロッコ・ルワンダ・セネガル・セーシェルの9カ国総勢14人が、香取村ミルクプラントや農家レストラン、ベビーリーフ栽培圃場など、大山町内を視察されました。研修生は各所で熱心に質問をしていて、自国の運営に役立てたいという熱意が伝わってきました。

酪農の様子も視察しました

また、研修生は雪を見るのが初めてという方がほとんどで、雪を冠した大山に一様に感動されていたことも印象的でした。研修生の母国では、紛争や地球温暖化などにより、様々な困難な状況におかれています。

しかし、こんななか、自国の農家所得の向上や起業の芽を伸ばしたいと頑張っている、遠い国の彼女達のために、大山町がお役に立てたのなら本当に嬉しいと思います。

妻木晩田（むきばんだ）遺跡から

妻木晩田遺跡事務所の利用制限

新ガイダンス施設「弥生の館（やよいのやかた）むきばんだ」建設工事にあわせ、事務所の改修工事を行っています。工事期間中も遺跡見学はできますが、施設の一部が利用できません。ご迷惑をおかけしますがご協力をお願いします。

◆制限期間
平成22年3月中旬頃まで

◆制限内容
事務所内の売店、展示室、ロビーの使用ができません。
※トイレの利用は可能です。受付にお申し出ください。

売店、展示室は、平成22年4月4日（日）開館のガイダンス施設「弥生の館むきばんだ」で新装オープンします。

◆問い合わせ先
妻木晩田遺跡事務所
☎0859‐37‐4000